

## 空き家をそのままにすると どんないマイナス面が

市では、弘前市の(株)大川地建代表取締役で不動産コンサルティングマスターの大川誠氏を招き、空き家対策セミナーを開催。「空き家そのままにしますか?」と題して講演した大川氏は、空き家にはゴミが不法投棄されたり、害獣が住み着いたりするなど、景観・衛生上のマイナス面が多いことや、空き家で起こり得る漏電事故の危険性などを解説しました。

このほかセミナーでは、地域おこし協力隊の小田川貴子隊員が「五所川原圏域空き家バンク」の実績などを紹介。「現在登録されているつがる市の物件は31件。令和4年度は、9件の新規登録があり、10件が成約済みとなった。市では空き家バンクに登録した方へ奨励金5万円を交付しているので、ぜひ登録してほしい」と呼び掛けました。

参加した稲垣地区に一人で暮らす女性は「将来、娘のところに引っ越そうと思っている。自宅を買ってもらいたいのので、空き家バンクに登録しようと思う」と話しました。



3/23  
松の館

大川氏(左)の話をメモするなど熱心に耳を傾ける参加者

## 子どもたちに支援を スクールサポーターに辞令



4/5  
松の館

倉光市長から辞令を受け取るスクールサポーター

この日、児童生徒の学習活動などをサポートする学校教育活動支援員(スクールサポーター)の辞令交付式が行われました。

市教育委員会では、特別な支援が必要な子どもに手を差しのべようと、令和5年度は31人のスクールサポーターを任用し、市内の全小中学校に配置。交付式で倉光市長は「子どもたちにとって身近で気軽に相談できるスクールサポーターのおかげで、つがる市の小中学校は高い教育水準を維持しています。皆さんが力を存分に発揮できるよう、環境も整えていきますのでご協力をお願いします」と激励しました。

車力中に配属される佐藤沙織さんは「児童生徒に寄り添って、支援・サポートしていきたい」と抱負を話しました。

## 航空自衛隊車力分屯基地に八島司令が着任

3月20日、航空自衛隊北部高射群第21高射隊長兼車力分屯基地司令に八島康喜2等空佐が着任しました。八島司令は長崎県の対馬出身。前任地は東京・市ヶ谷の航空幕僚監部装備計画部整備・補給課。車力分屯基地の第26代司令として隊員たちを指揮します。

4月6日、市役所を訪れた八島司令は「地域の環境美化活動や基地開庁祭などの行事を計画している。市民の皆さまと共存共栄できるように努めていきたい」と話し、倉光市長は「地域と良好な関係を築いてきているので、引き続き自衛隊、米軍、警察、行政の連携を維持していければ」と話しました。

離任した藤井貴志2等空佐は、航空幕僚監部(新宿区)へ赴任しました。



4/6  
市役所

倉光市長と握手を交わす八島司令(右)

## 春の火災予防運動

## 火の取り扱いに注意!

4/10  
しゃこちゃん  
温泉前



出動式に臨む消防団員

4月10日から16日までの7日間、「お出かけは マスク戸締り 火の用心」を全国統一標語に、春の火災予防運動が実施されました。

この運動は、火災が発生しやすい時期を迎えるにあたって、火災予防の思想普及、火災発生の防止を目的に毎年行われ、本市では初日に消防団員などによるパトロール出動式が行われました。

出動式では、倉光市長が「2月に住宅1棟が全焼する火災が発生した。より一層の火災予防活動に積極的に取り組んでいただきたい」とあいさつ。続いて大淵則昭消防団長から訓示を受けた団員らは、一斉に消防車両に乗り込み、市内パトロールに出動しました。

春になり火災が増えています。火の取り扱いには十分注意しましょう。

## 縄文住居展示資料館 カルコ リニューアルオープン!

昨年9月末から臨時休館していた「縄文住居展示資料館カルコ」が装い新たにリニューアルオープンしました。館内には貝の捨て場(貝層)を再現したほか、初公開の土器をはじめ、くらしの中で使われていた道具など約500点を展示。さらに、縄文グッズの販売コーナーも設けました。

この日開かれた記念式典で倉光市長は「本市の縄文遺跡をはじめとした歴史文化の価値や魅力を広く知っていただき、その価値をさらに高めていくための一助となれば」と話しました。

また、特別ゲストとして招待された俳優・タレントの片桐仁さんは「縄文の奥深さ、楽しさを観光客はもちろん、地元の人にも知ってほしい」と話しました。カルコでは片桐さんが遮光器土偶をモチーフに商品化したペットボトルホルダー「ペットボ土偶」も数量限定で販売しました。



4/21  
カルコ

360度いろいろな角度から見られるようになった遮光器土偶(レプリカ)を鑑賞する倉光市長と片桐さん

## もみ殻の野焼き防止に 新たな取り組みへ挑戦

市は、風力事業を手掛ける(株)グリーンパワーインベストメント(GPI)および土木資材等の製造・販売を行っている前田工織(株)と、稲わら・もみ殻の利活用に関する協定を締結しました。

毎年、稲刈りの季節になると、稲わらやもみ殻の野焼きによって岩木山がかすんで見えなくなるほどの煙が地域を覆い、悪臭や交通障害などが発生しています。

そこで、3者は課題解決のため、まずはもみ殻を活用して法面などの工事で使用される緑化資材を開発。今後、市はもみ殻の原材料供給体制を整備し、前田工織は緑化資材を製造・販売、GPIはその資材を自社事業で活用を進め、脱炭素化を目指します。

この日行われた締結式で倉光市長は「3者で、ゆくゆくは農業生産の利益にもつながるような施策につくりあげていきたい」と話しました。



植物の生育を促進する前田工織の緑化資材「フルボストロー」



協定書にサインするGPI坂本満代表取締役社長(左)と前田工織前田尚宏代表取締役社長(右)